

予算常任委員会会議録

1 開会日時 令和6年6月28日（金）午前10時7分

2 閉会日時 令和6年6月28日（金）午後11時16分

3 会議場所 協議会室

4 出席委員

1 番	牛尾 直人君	2 番	鼻岡 美保君	3 番	安藤 利博君
4 番	永徳 省二君	5 番	大森 進次君	6 番	光成 良充君
7 番	保田 守君	8 番	大口 浩志君	9 番	治徳 義明君
10 番	原田 素代君	11 番	金谷 文則君	12 番	松田 勲君
13 番	福木 京子君	14 番	佐藤 武文君	15 番	下山 哲司君
16 番	実盛 祥五君				

5 欠席委員

なし

6 説明のために出席した者

市長	友實 武則君	総合政策部長	倉本 貴博君
総務部長	戸川 邦彦君	財務部長	杉原 洋二君
保健福祉部長	遠藤 健一君	総務課長	花谷 晋一君
社会福祉課長	富山 雅史君		

7 事務局職員出席者

議会事務局長	原田 光治君	副参事	逢坂紀美子君
--------	--------	-----	--------

8 審査又は調査事件について

1) 議第38号 令和6年度赤磐市一般会計補正予算（第3号）

午前10時7分 開会

○委員長（大森進次君） ただいまから予算常任委員会を開会いたします。

初めに、友實市長より挨拶をお願いをいたします。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 皆さん、本日、最終日なんですけども、第3号補正予算、上程させていただいております。本委員会に付託されております。御審査のほどよろしくお願ひ申し上げまして、挨拶に代えさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○委員長（大森進次君） それでは、これから委員会の審査に入ります。

当委員会に付託された案件は、議第38号令和6年度赤磐市一般会計補正予算（第3号）であります。

内容につきましては、本会議場で説明いただきましたが、補足説明がありましたらお願ひをいたします。

説明は、重要な部分を捉えていただきまして、簡潔にお願ひをしたいと思います。説明及び質疑のときは、補正予算書、説明資料のページ番号を言ってからお願ひします。

なお、御存じと思いますが、補正予算書と説明資料は、タブレットの全体共有フォルダ、本会議、令和6年、6月第2回定例会、議案・説明資料のフォルダに格納されています。

それでは、執行部からの補足説明がありましたら、お願ひをいたします。

○財務部長（杉原洋二君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 杉原財務部長。

○財務部長（杉原洋二君） 先ほどの提案理由説明のとおり、補足説明はございません。

以上です。

○委員長（大森進次君） ありがとうございます。

それでは、質疑を受けたいと思います。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 予算常任委員長にお伺ひいたします。

予算常任委員会は、予算の内容について審査するのが目的で、社会福祉協議会で起きた諸課題の問題についての質疑は当委員会ではできないと思います。いかがでしょうか。

3月定例議会の本委員会で、予算に関わる事象以外は議論できないため、議会全員協議会において議論すべきとの議員発議があり、協議会が開催されました。職場内でのパワハラ、残業代の未払い、一部幹部職員の給与不適切支給の問題等についての議論があり、執行部に調査依頼を行い、予算の修正を予算常任委員会において全会一致で採決をいたしました。その後、厚生文教常任委員会において、内容の詳細な調査が行われ、一部の内容についてタブレットでの

報告がありました。その後、議会には報告がありませんが、必要ないのでしょうか。課題は全て解決されたのでしょうか。

私は、議会全員協議会において、執行部からの調査を行った結果の報告を受け、再議すべきと思います。そして、予算常任委員会で、今回付託された議案の審査を行い、全会一致で可決するのが議会運営の正しいやり方と私は思いますが、いかがでしょうか。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 佐藤委員の提案は、全くもってそのとおりでと思います。そもそも予算常任委員会で議論してません。要するに、その前の議会全員協議会で総意がまとまったので、恐らく議会運営委員会のほうで、手続上、予算常任委員会の段階で修正動議はかけよう、下山委員が提案者になって修正動議が出されたという経緯だと思います。そもそも予算常任委員会で議論してないものが、修正動議で落ちて、今回また執行部が、何を考えてるのか知りませんが、出したいと、それだったらもう一度議会全員協議会の場で議論して、どこにそういう変化があって、今回予算を執行してもよいと判断する議論の場が予算常任委員会ではありません。ですから、当然、議会全員協議会の場に戻して、議長が進行してその議論を進めるべきだと思います。ここで乱暴に予算常任委員会に戻すというやり方は、あくまで便宜上の話なので全く納得できません。

以上です。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） スタートは私に責任があるんですが、一応さきの議会全員協議会で皆さんお話をしてお二人ほどは異論があったようには思いますが、一応議会の役目は終わったというふうに私自身は認識しております。ですから、そういう観点を踏まえてしっかり委員会のほうでやっていただけたらと思いますので、よろしくをお願いします。

○委員長（大森進次君） ほかにありませんか。

鼻岡委員。

○委員（鼻岡美保君） 私よく分からないんですが、この予算が当初の補正予算と一緒に提出されずに最終日に近くなって提案されている理由がよく分からないので、説明してほしいなと思うんですが、いかがでしょうか。

○委員（金谷文則君） ちょっと止めましょうよ。

○委員長（大森進次君） そしたら、暫時休憩いたします。

午前10時13分 休憩

午前10時31分 再開

○委員長（大森進次君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

今それぞれ皆さん思いとかいろんな考えがあろうかと思いますが、議会運営委員会で予算常任委員会で審査、決定をするというような話になっておったと思うんで、進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

まず1番に、鼻岡委員の言われた、なぜ今日なのかっていうことについて、執行部に説明をお願いをしたいなというふうに思います。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 先ほどの鼻岡委員の質問でございます。

質問の趣旨は、6月定例会の当初に提出されずに、なぜ最終日に緊急案件として提出がなされたかということによろしかったですよ。

確かに3月定例会の中で当初予算として上げておりましたが、それが議員全会一致で修正という形になりました。それを受けて、我々も執行部として、社会福祉協議会に再三調査——パワハラに関する調査——をきちんとするように、これは調査といっても内部調査ではなく、外部の調査組織を立ち上げての調査、公平にやるべきだということを申し上げております。

そして、もう一つには残業手当についてもきちんとヒアリングを行って、適切な判断をなされるようにということを申し入れさせていただきます。

そして、給与の問題、これについても、赤磐市の60歳以上の定年延長に関する条例でございますので、これを準拠して制度化してほしいという申入れを再三しました。

それが、なかなか、社会福祉協議会も今までの継続性を考えて、特に3番目のことについてどうしたらいいのかっていうのを協議するのに時間がかかりました。最終的に、赤磐市が要求している内容をほぼ満足する形で文書回答が5月10日になされました。これは、先ほど来から議論がなされているように、議員の皆さん、厚生文教常任委員会、これを報告させていただいて、一定以上の社会福祉協議会の自覚と理解が進んだものと、そしてこの文書をたたきに執行部で協議も再三してます。そういう中で、社会福祉協議会の真剣度合い、そういったものが認められましたので、補正予算として上程することを決めたわけです。

補正予算をなぜ6月定例会の当初から上げなかったかといいますと、議会事務局の議案締切りが5月17日ということで、文書の内容確認、それから協議するのにこの日にちに間に合わなかったということで、やむなく最終日上程という手続を取らせていただいた次第でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○委員長（大森進次君） よろしいか。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 原田委員。

○委員（原田素代君） その締切りに間に合わない理由に議案の審議、議案を確認する必要があったとおっしゃったけど、先ほど来下山委員がおっしゃってるように、もうこれは3月議会

で出されてる議案です、議案としてもう了解している議案。それが、何で今回はばたばたと時間がかかるという理由になるのかが分からない。説明ください。

○委員長（大森進次君） 答弁を求めます。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 確かにある程度時間を費やしました。それは、何かというと、社会福祉協議会の書面での提出、この文面が信頼できるものなのか、あるいはこの言葉になっていない部分、こういった部分を確認する必要があるということで、確認をし、我々と同じ目線で物事に取り組もうとしていることが確認できたので、それを第3号の補正予算として上げさせていただいたということでございます。確認の内容というのは、先ほど申し上げたとおりでございます。

以上です。

○委員長（大森進次君） よろしいか。

○委員（安藤利博君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 安藤委員。

○委員（安藤利博君） 社会福祉協議会のほうから今まで口頭でしか回答がなかったのが、この文書であったということの評価してということですけど、それは私のほうも評価したいと思います。

しかし、弁護士による調査委員会を立ち上げるということですけど、結論がいつ出るのか、その内容がどうなのか、中身が我々が想定しているような内容になるのか、今の段階では分からないと思います。確証がないです。原田委員はその辺を言われてるんだろうと思います。

そこで、今の段階で市長がこの予算を出してこられた意図といたしますか、覚悟、それを確認したいんですけど、今回の社会福祉協議会の問題は、根本的にはもう同じ人物が長年にわたって会計とか業務の中枢を担ってきたと、それによって、どの組織でもそうですけど、一人の人間がずっとすれば、これは一般論ですけど、何かしら不都合が起こるとというのが常識です。だから、人事が交代していくわけですけど、同じ方がずっと何十年もやってると、そのことが言ってみれば社会福祉法人としては異常だと思います。

それは、結局裏を返したら、本当に後継者が育ってないのか、いるのにその方がずっと続けたのか、分かりません。社会福祉協議会の人事に赤磐市のほうから口出しはできないと思いますが、仮に社会福祉協議会のほうから人材がないということで、赤磐市のほうに人材を派遣してくれというふうな要請があったときには、市長、社会福祉協議会の立て直しじゃないですけど、そのために職員を派遣する用意といたしますか覚悟はおありでしょうか。

○委員長（大森進次君） 答弁を求めます。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 友實市長。

○市長（友實武則君） まず、この調査についてですけども、社会福祉協議会が力不足であれば、赤磐市のほうからもこれを何らかの形で支援しながら進めていくと私は心に決めています。

それから、先ほど安藤委員が言われるように、赤磐市から職員派遣をということであれば、それは積極的に取り組みます。

以上です。

○委員長（大森進次君） よろしいか。

○委員（安藤利博君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 安藤委員。

○委員（安藤利博君） もう一点念押しですけど、調査委員会の結論が我々の想定してるような結論じゃないとか、あるいはパワハラがないとか、社会福祉協議会の関係者の処分を何らしめないとか、あるいは結論が先延ばしになって年内でないとかというふうな状態になったら、私はもう社会福祉協議会には自浄能力がないと判断せざるを得ないと思うんです。

そんなときには、今回この補正予算が出てますけど、社会福祉協議会のほうの対応によっては、今回の予算じゃなしに来年度の予算は凍結してつけませんと、解体的出直しをやってくださいと、市長のほうから社会福祉協議会のほうに、人事とかなんとかは社会福祉協議会がやるからそこまで口出しできませんけど、先ほどのやつも社会福祉協議会のほうから派遣要請があればという話です。こちらから積極的には別法人ですからできないと思いますけど、我々が想定しているような対応が取れないのであれば、来年度の予算はつけないよというぐらいのつもりで、我々が多分もう共通認識してると思うんですけど、そういった見直しをやってもらうという覚悟はおありでしょうか。

○委員長（大森進次君） 答弁を求めます。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 友實市長。

○市長（友實武則君） 社会福祉協議会のこの事実関係を明らかにし、そしてこれを市民の皆さんにも公表しながら適切に対応していくことは、これは間違いなく実行するものと私も心に誓っております。

それから、この時期については、第三者、つまり社会福祉協議会やそういったものに関わりのない有識者、具体的には弁護士をはじめとした公平性が保障される方へ調査を依頼して、正確に、双方の言い分があると思うんで、それを伺った上で調査報告をしていただきます。

この報告が、我々にとってもこの先の動きを左右するものと思っておりますので、安藤委員がおっしゃるような事態であれば、厳しく対応することが必要と考えます。

以上です。

○委員長（大森進次君） よろしいか。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 市長、そこまでの決意がありながら、なぜ2年間何もできなかったんでしょうか。理解できないです。

大体、私本会議場でもお尋ねしましたが、会長の人事それから事務局長の人事は市長のほうから声をかけたんだと御自分で認めました。理事会で諮っていただいた。それは、手続ですから当然です。要するに、市長は、社会福祉協議会は別法人という建前はあるにしても、人事をはじめとして大きな影響力をお持ちなんです。

だから、先ほど安藤委員がおっしゃったように、支援の依頼があったらっておっしゃったけど、そもそもこの2年間のあれだけの職員の涙ながらの訴えを聞いていながら、その手を差し伸べることを御自分からされなかったということについて、私は愕然とするんです。そういう思いがあるから、今回突然こういうふうにもういいだろうと、もう解決策を向こうから出してきたんだからこれを認めてやろうと、これでいいんじゃないか、その市長のお考えの軽さに、私ははっきり言って非常に信頼を得られない発想だろうと思います。市長、そんな考えだったら、社会福祉協議会の職員は本当に泣けてきます。

もう一つ言うと、私がぜひお尋ねしたいのは、去年の3月27日に今おっしゃってる弁護士を入れた第三者委員会ができれば解決するとおっしゃってるけど、実際はもう1回この山陽新聞に出た手当348万円支給の不適切手続というふうに記事になったようなことを弁護士が2名で調査報告書を出してますけど、これをお読みになっていたのならば、この文書に7か所不適切という文言があるんです。この委員長と委員の2人の弁護士が違法性はなかった。しかし、これだけ不適切があったという7か所、これはお読みになって、この間委員会でおっしゃいましたよね、外部監査っていうのは一つでも不適切があったらやるべきだ、すみません、7つあるんです。市長、このことについてはどうのお考えですか。

○委員長（大森進次君） 答弁を求めます。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 友實市長。

○市長（友實武則君） この報告は、読ませていただいておりますが、その中で一番大きな問題というのは、この改善手当を支給するのを理事会にお諮りもせず支給をしているということが最大の問題だという表現だったと思います。そういったことについては、順番が逆になるんですけど、社会福祉協議会が理事会を緊急に開いて報告をし、理事の総意をいただいたと、全会一致ではなかったようですけども、そういったことも報告いただいております。

同じように、その他の課題についても、社会福祉協議会が誠意を持って解決に当たるべきものと考えております。それについても、社会福祉協議会に要請をしているところです。

そういった要請も含めて、時間がかかってしまったということはございます。なかなか我々が求めているところに社会福祉協議会そのものが到達していただけなかったっていうのも課題としてありました。ここへ来て、これが、市民目線で説明することで理解をいただいて、この文面が帰ってきていると、そういう理解でございます。決して軽い判断ではございません。

以上です。

○委員長（大森進次君） よろしいか。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 何をおっしゃってるか後半分かんなくなってくるんですけど、要するにこういった調査も一度してる、その結果が出てる、不適切だと指摘されてる、このことを市側はどういう形で解決に向けて努力されてきたのかっていうのを今日私は予算常任委員会だから尋ねようと思ってるんですよ。委員会でこの議論というわけにはいかないですから、予算常任委員会で執行部にこの報告書のこの7つの指摘、不適切だということがどう改善されるのか、もしくはどう改善される見込みがあると思ってるのか、そういう議論がされて、この予算常任委員会として今回の第3号議案をそれならじゃあ出そう、いやいや、時期がまだちょっと早いや、もうちょっと待って解決を見届けよう、そういう議論になると思います。ですから、私の中では、この7つの不適切についてしっかりとお尋ねし、答弁を求めようと思ってるということを取りあえず付け加えさせていただきます。

○委員長（大森進次君） ほかに質疑ありませんか。

今原田委員が言われる7つの項目のこともあろうかと思えますけども、今回議会運営委員会で進めて、予算常任委員会で採決という形になっておりますんで、それはそれで進めてもらいながら、こっちの委員会も進めてまいらにやいかんので、よろしくお願いをしたいと思います。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） その以前の問題は、しっかり厚生文教常任委員会でやってくださったらいいんじゃないから、今後あるんじゃないから。それじゃから、この今の修正に関しての件だけについて、至ったことについて皆さんがそれで賛成するんか反対するんか、これ以上言うたって切りがないわけですから、諮ってください。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 原田委員。

○委員（原田素代君） もう一度確認しますが、要するに担当委員会ができること、やってきたことっていうものと市側に説明を求めるものっていうのは別々にあって、今日は予算常任委員会ですから、予算書に基づいて、この弁護士の調査報告書の不適切が改善されてあるのか

ないのかがはっきり分かった時点で私は採決に臨めると思ってるんです。ですから、これから1つずつ確認しますが、皆さん、この中に報告書が入ってると思います。

○委員（松田 勲君） それは入ってない。

○委員（下山哲司君） それは関係ねえ。

○委員（原田素代君） 関係なくないじゃない。持ってない人が分かるように私が言いますよ。

○委員（下山哲司君） 言わんでもええ。

○委員（光成良充君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 光成委員。

○委員（光成良充君） お言葉を返すようで申し訳ないんですけども、今回のこの予算で上程されてる部分と第三者委員会の中身は別物なので。

今回の予算常任委員会でそれは多分質疑をするべきではないと。その内容で議論をするのであれば、厚生文教常任委員会の中でしないといけない問題で、直接の予算には関係がない問題です。

この間の厚生文教常任委員会でもお話しさせてもらったと思うんですが、今度予算が出てくる可能性もあります。その予算とこの第三者委員会の報告、去年の3月にされてますけど、それとは別物で考えていきましょうねっていう話をさせてもらったと思うんですが、厚生文教常任委員会の委員は多分それは認識されてると思うんですけども。

今回の予算で、この予算常任委員会で話をするのは、第三者委員会の部分はすべきではないと、委員長としてはそう感じておりますが。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 原田委員。

○委員（原田素代君） さっきからの議論を聞いていて理解が得ていただけると私は思ったんですけど、なぜ修正動議に至ったかってことをもう一度思い返してください。社会福祉協議会に大きな課題があって、問題があって、解決せねばいけない、議会としての判断が問われる、それで全員一致だったんです。今回の調査報告書について言うと、今までの社会福祉協議会のたまった様々なあかやおごりや不適切がいっぱい指摘されてる、こういう社会福祉協議会に約8,750万円を出していいのかっていう議論とつながるんです。これはこれで、いや、今回からはもう真っさらの社会福祉協議会だから出しましょうって話になるわけがないでしょ。この間の議会全員協議会で話したのは、多くの問題を解決していかなきゃいけないので……。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 聞きたくないです。

○委員（原田素代君） 聞きたくないなら出てってください。ここは私はもう許可を得て発言

してるんです。許可を得て発言してる人に対して聞きたくないんだったら、出てればいいですよ。

最後に一言まとめますが、光成委員がおっしゃったように、この第三者委員会報告書はまた別だとおっしゃるのは全く見当が違います。あのときに修正動議をかけた理由がこれなんですから、こういう問題があるから修正動議に至ったんです。

○委員（松田 勲君） いや、それだけじゃないよ。それは違います。

○委員（原田素代君） 違います。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 私が出させてもろうたんじゃから、私は予算常任委員会で質問して、その答弁に合わせて、それでは不適切ですからということでそれに合わせて出させてもろうとんで、そういうものに合わせて出しとんじゃないんで、それで御理解を間違えんように、委員長、取り計らいをよろしゅうお願いします。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 下山委員、何が不適切だったのか述べてください。

○委員（下山哲司君） 私が説明せにゃいけん理由はない。

○委員長（大森進次君） 今回の予算常任委員会でこの報告っていうように出てきてる内容で今日委員会をしとんですけども、市長が言っとんのは、パワーハラスメントについてのこと、残業未払いのこと、定年後の給与のこと、3点について出てきてまして、それについて話をするというような形に出てきてますんで、その内容について進めてもらいたいなというふうに思いますし、今の内容でしたら、市長からも説明がありましたように、パワーハラスメント、残業代、定年後のことっていうのは説明が出てきとったと思うんで、それで御理解をいただきたいなというふうに思います。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 原田委員。

○委員（原田素代君） いや、御理解をいただける内容じゃないでしょ。だから、この3点が解決すればこの積年の問題が解決するところには書いてないわけです。理事会の問題それから様々な問題を解決しなければいけないという、不適切のことが書いてあって、この方の、いやいやいや。

○委員（松田 勲君） いや、そりゃでももともと3点の話じゃし。

話を広げてる。

○委員（原田素代君） 広げなきゃ解決しないんです。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 先ほども言うたように、いつまで言うたって原田委員は理解をしていただける人じゃないんじゃないから、分かっとなんじやから、そういうのは置いて、それじゃから先ほど早く採決してくださいと。その3項目についてしか私は出してないんですから、ほかのものを次々持って出られてやられたら僕に対して迷惑ですから、やめてもろうてくださいよ。

○委員（安藤利博君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 安藤委員。

○委員（安藤利博君） すみません。そういう応酬は議会として情けないです。赤磐市議会の申合せ事項で質疑は3回までにするとなってます。だから趣旨を踏まえて、言いたいことはいっぱいあると思いますけど、それをまとめて手短に、委員長当初言われました。まとめて、本会議もそうですから、その趣旨を踏まえて3回にまとめる形でやってください。

今のやり方を聞いてたら、これはいつまでたっても終わりませんよ。

○委員（原田素代君） そんなことないでしょ。

○委員（安藤利博君） 言いたいことも分かりますけど、それをまとめて言ってください。

○副委員長（永徳省二君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 永徳副委員長。

○副委員長（永徳省二君） 整理します。

4月17日に、社会福祉協議会の山田会長からパワーハラスメントについてこれから懲戒処分を検討しますという回答が返ってきました。残業代未払いについては、適切にこれから対応しますという回答が返ってきました。定年後の給与についても、条例を参考に一部改正をこれから行いますと、全てこれからスタートに就きますという回答書が4月17日に友實市長宛てに届いています。

それで、我々議会は、6月4日に議案が上程されました。この6月4日の上程には、社会福祉協議会の約8,700万円は入っていません。皆さん御存じのように入っていません。翌日6月5日に社会福祉協議会の理事会がありました。私3時間以上傍聴したんですけれども、8,700万円の予算が6月にも入ってないとかという話題は、社会福祉協議会の会長からも副会長からも8人の理事からも、一切そういう話題は出ませんでした。

これはどういうことかということ、社会福祉協議会は8,700万円が別にあるがなかろうが関係ないよということなんです。本来、社会福祉協議会をどこに持っていくかというのは、理事会で決めるべきもんなんです。これが最高決定機関なんですけど、ここで、今言った3つのパワハラ、残業代未払い、定年後の給与、これについても一切の議論、会話、改善、一切の会話がないというのが、これが現状です。これに対してどう思われるのか。その理事の中に遠藤部長がおられます。どういうことかっていうことをもう一度皆さんの前で説明していただいていいですか。

○委員長（大森進次君） 答弁を求めます。

○保健福祉部長（遠藤健一君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 遠藤保健福祉部長。

○保健福祉部長（遠藤健一君） さきの厚生文教常任委員会でも、永徳副委員長のほうから同様の趣旨で御質問をいただき、私のほうも理事としての発言力不足っていうところは、もう少しこれから戒めて頑張っていきたいということもお話をさせていただきましたが、その折の説明をもう一度させていただきます。

6月5日の理事会で、会長ほか役員の方、そしてほかの理事の方からも、特にその予算についてのお話はありませんでした。ただ、その前に、3月議会での全会一致で予備費になったという時点から後の臨時の理事会、日付は今すぐに申し上げられませんが、その中では会長が全くもって私の不徳の致すところであると、皆さんに大変御迷惑をおかけしておりますと、一刻も早く正常に市のほうで予算をつけてもらうように、これから改善案について検討していきたいという御挨拶、お話をいただいております。それに、決定機関というのは理事会であり評議員会でありますから、当然それを毎日招集するっていうことには至りませんので、ある程度の時間を要したと。

最終的に、今回は6月5日の理事会と6月のつい先日も評議員会がございました。こちらのほうで、例えばハラスメントの第三者、弁護士会に委託をお願いをして、今選出をしていただいているところですか、それから定年後の給与の見直しについても、部会で検討したものをそれぞれ理事会、評議員会でこういう案で進めていきたいということを発表をされたというふうに、段階を追って進めておられるという状況であります。

以上です。

○委員長（大森進次君） よろしいか。

永徳副委員長。

○副委員長（永徳省二君） 今お話しされたように、6月4日に上程があって、6月5日の社会福祉協議会の理事会で予算の話、金銭のそういう意味での8,700万円の話が一切なかったということは、社会福祉協議会は8,700万円の補助金がなくても困らないからでしょ。なぜかという、既に4月以降の理事会で自己資金8,000万円の貯金を下ろしてるわけですよ。既に令和6年度の事業計画を全て理事会で承認されてる。すなわち、赤磐市が8,700万円補助しなくても、もう社会福祉協議会は自己資金の中で令和6年度は走っていけるということが分かるから、6月5日の理事会ではそういう話題が一切出なかったんじゃないですか。

○委員長（大森進次君） 答弁を求めます。

○保健福祉部長（遠藤健一君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 遠藤保健福祉部長。

○保健福祉部長（遠藤健一君） 確かに、予算が凍結された時点で臨時の理事会でしたかを招

集をされて、次年度の事業、計画全てを中止、延期ということは社会福祉協議会もできませんので、実際に自分のところにある積立資金をひとまず、たしか6,000万円だったと思いますけど、これを崩させてほしいという案を出されて、それを皆さんで承認をしたということでございます。

決して市の補助金が要らないとか当てにしてないとか、そういうことではなく、先ほども申し上げましたが、3月のそういう理事会、評議員会の場で、本当に早く市のほうに戻してもらいたいんだけど、事業を止めるわけにはいかないのではという、そういう理解でございます。

以上です。

○委員長（大森進次君） よろしいか。

永徳副委員長。

○副委員長（永徳省二君） 8,700万円の市からの補助金がもし必要であれば、何度も言います、6月5日の理事会で何でそういう会話をしなかったんですか。

○委員長（大森進次君） 答弁を求めます。

○保健福祉部長（遠藤健一君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 遠藤保健福祉部長。

○保健福祉部長（遠藤健一君） 6月5日のあの理事会の、数時間かかりましたけれど、ここでのメインのお話っていうのは、前年度の決算ほかの議題でございました。何度も言いますが、それまでの理事会、評議員会でそういう認識でもう理事も役員の皆さんもおられますので、とにかく早く改善策を具体化していこうということは、我々執行部とずっと話を進めておりましたという事実はございます。

以上です。

○副委員長（永徳省二君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 永徳副委員長。

○副委員長（永徳省二君） 改善策を練るのが理事会でしょ。一言もパワハラの問題、残業代未払いの話、定年後の給与、一切話がなかったんですよ。どうやって解決するんですか。この4月17日のこの回答書ですけども、これは全てスタートラインですよ、パワーハラスメントに関しては職員の懲戒処分を検討します、検討じゃなくて処分しましたという結論を受けて、あるいは残業代未払いについては、適切に対応しますじゃなくて対応しました、あるいは定年後の給与については、条例の一部改正を行いますじゃなくて改正しましたという、こういう結論をもらった上で8,700万円の修正案を出すべきじゃないかなと思うんですが、いかがでしょうか。

○委員長（大森進次君） 答弁を求めます。

○保健福祉部長（遠藤健一君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 遠藤保健福祉部長。

○保健福祉部長（遠藤健一君） 御指摘の改善策について、永徳副委員長からは以前からもそういうふうにあるべきであろうと、こういうふうに改善しました、こういう結果が出ましたということを見届けるべきであろうという御意見、もちろんそういう御意見もあると思いますが、さきの厚生文教常任委員会でも私のほうが言わせていただいたように、社会福祉協議会としてもこの問題に真剣に取り組んでいくということで、動き出しを始めることができたというところを私どもとしてはここで見させていただいたということで、よろしく申し上げます。

以上です。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 私も傍聴しました。4時間近くいました。永徳副委員長のおっしゃるとおりで、非常に残念だなと思いました。監査委員に終わった後に肩をたたいて声をかけました、何で市からの補助金が必要だという発言をされないんですかと。それに対して監査の方、いやいや、言えませんというアクションでした。何か理事会そのものに非常に不穏な空気が漂ってるなという印象と、それからさっきから申し上げてるように、理事会が諮れば、理事会の総意でっておっしゃるけど、その理事会自身がこの2年間何にも機能してなかったということがここではっきり分かってるんです。機能してない理事会をまだ信じるんですか。そういうことを私たちは懸念してるということです。

○委員（福木京子君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 福木委員。

○委員（福木京子君） 光成委員が先に言われたほうがええとは思いますが、私は評議員なんで、6月25日に評議員会があったんです。それで、5月23日に開催された理事会の中の総務部会での協議内容について報告がありました。

1番が、定年退職した職員の給与の取扱いについてということで、60歳以降の昇給は廃止します、役職定年制を導入します。ただし、本会では、職員数や職員構成の観点から、定年を迎えた管理職を引き続き管理職として雇用することが必要な場合が想定されます。そのため、役職定年制導入に当たっては、一定の役職までは定年制対象外とすることを検討します。また、正規職員の場合、60歳定年、65歳まで嘱託職員として再雇用する形式の継続も併せて検討しますということで、就業規則や職員の給与規程の一部改正案が出されております。そして、定年延長については、他市の社会福祉協議会の状況も全部調べた資料があります。

それから、職員のモチベーションの向上対策について、検討課題ということでたくさん出ております。モチベーション向上対策検討経過、そして諸手当のことなど報告がありました。

私も、議会はこういう状況で予算が凍結してるんだけど、これが一番の問題なんだから、理事会であったことをもっと詳しく説明くださいと言って、質問もしたんですが、そういう質問をしましたら、一応最後に少し理事会の報告はありました、今報告したことについて、もう少

し膨らませた報告がありました。

以上です。

○委員（金谷文則君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 金谷委員。

○委員（金谷文則君） 予算常任委員会を今やってるんで、この委員会の本来のことをやらなきゃいけないんですけど、結局よく理解してもらいたいのは、いろんなことがあったかもしれませんが、この予算常任委員会の中で議論をする、要は今日上程されてる追加の補正予算、これは今の社会福祉協議会の回答が5月10日付のものが市長のほうに出されて、市長というか執行部のほうは、これで今の社会福祉協議会の問題については十分これから先、問題なく対応できると認めたからこそ、じゃあストップしてる今の8,700万円については予備費から本来のところへ上げて、これを議会にかけて皆さんで承認願いたいということでここへ出されとる。これが、今日のこの委員会の話なので、一番は要は社会福祉協議会が出してこられたことに納得をしたからというの、これは大前提です、市のほうが。

結局、私たち議会のほうは、社会福祉協議会を直接あれこれっていうわけにはいかない立場ということから考えれば、市がというか市長が責任を持って、これで今の問題、ハラスメント、残業代未払い、定年後の給与についてはこれから検討するとかという曖昧な答えにもなってますけど、責任を持ってこれをやるから結局予算を認めてくださいと今ここに出てるんで、このことについてどうするかということはこの委員会の中で、特に委員長、諮っていかれるような手配をしていただかないと、いろんな意見をやってたら終わらないですし、必要な意見だとは思いますが、この予算常任委員会でやるべきことで進めていただけないかなと思います。

○委員長（大森進次君） ありがとうございます。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 今の発言もありますが、この議会が社会福祉協議会のやることに対してあせえこうせえということは言えんです。議会は執行部へ言うて、執行部が社会福祉協議会と協議するんで、議会が直接協議する場やこうはないんで、代表理事は行つとるし、評議員も行つとんじゃから、その範囲の中で議会の活動をせんと、それ以上の活動を議会がするようにはなってないんで、さきの副委員長の発言は、委員長の補佐をして立派にやりますからというて挨拶もせられた人が、混乱を招くような副委員長が言動をしょうたんじゃあ、委員会はきちっといきませんよ、正常に。その辺はよう考えてからやってください。あの挨拶をせられたじゃないですか、委員長を助けて予算常任委員会がうまくいくように努力しますというて言われた人が、混乱を招くような発言をしたら、それは傍聴に行つて聞かれて、そういうことが気に入らんのか、それとも手柄のように言われよんか分かんんですけど、私にとつたらそうい

う運営の仕方はないというふうに思うとんで、委員長、その辺をしっかりとやってください。

○委員（松田 勲君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） いろいろ皆さん御意見あったんですけど、先ほど金谷委員がまとめられて話したとおりと私も思います。今福木委員が評議員として行かれて、詳細な回答も何かあったという話も聞いておりますので、そういった意味では、6月の理事会では話は出なかったけど、その前にいろいろとやったというのも分かりますし、福木委員が言われた内容で進んでる話も分かったんで、さっき金谷委員が言われたように、予算のことですから、ここでそろそろ採決を採るべきだと私は思います。

○委員長（大森進次君） 分かりました。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 予算のことですから、なおのことこの不適切な会計処理があったことにする検証をもう一度執行部にお聞きしたい。下山委員が議会がやることじゃない、そうでしょう、執行部がやることです、この検証をきちんと精査するのは。それについて、この7つの不適切についてどうなされたのか私はここで質問したい。これは、会計上の問題です、予算の問題です。

○委員長（大森進次君） 修正として出てきたのは3項目、先ほど金谷委員が言われたような回答で出てきてますし、この出てきた内容についてはすごく評価していきたいと思えますし、話も長くなれば、それぞれあるんですけども、進めていきたいと思えます。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（大森進次君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 予算常任委員会でしょ、ここ。

ですから、予算について審査しなきゃいけないんですよ。認められた予算の……。

○委員（松田 勲君） この予算は人件費。

○委員（原田素代君） 違う、予算は予算です、人件費だろうが何だろうが。要するに、適切に使われていないという指摘を市がどう検証してるかを聞かないと……。

○委員（松田 勲君） 3月にしとる。

○委員（原田素代君） してません。

○委員（下山哲司君） 3月にしとるんじゃねんか。3月に反対したんか。

○委員（原田素代君） 修正動議かけたでしょ。

○委員（下山哲司君） 何もかんもごじゃごじゃの話したらいけんで。

○委員長（大森進次君） すみません。採決したいと思えます。

修正も出てきて、3項目も出てきておりますし、賛否を採って、この件については進んでき

とるんかなというふうに思いますし、市長のところへ出てきて、発言にもありましたようにきっちり見ていくということもありますし、これで議第38号令和6年度赤磐市一般会計補正予算（第3号）の質疑を終了します。

それではただいまから本委員会に付託されました議第38号令和6年度赤磐市一般会計補正予算（第3号）について採決を行いたいと思います。

議第38号令和6年度赤磐市一般会計補正予算（第3号）について、これを原案のとおり決定することに賛成の方は起立をお願いいたします。

〔賛成者起立〕

○委員長（大森進次君） 起立多数です。したがって、議第38号は原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上で当委員会に付託されました案件の審査はこれで全て終了しました。

なお、委員長報告につきましては委員長に一任していただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（大森進次君） それでは、そのようにさせていただきます。

これで予算常任委員会を閉会いたします。

皆さん、お疲れさまでした。

午前11時16分 閉会